

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	14-147	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Alcohol consumption and physical functioning among middle-aged and older adults in Central and Eastern Europe: Results from the HAPIEE study. 中央と東ヨーロッパにおける中高年者の飲酒と身体機能：HAPIEE研究からの報告		
執筆者		
Hu Y, Pikhart H, Maljutina S, Pajak A, Kubinova R, Nikitin Y, Peasey A, Marmot M, Bobak M.		
掲載誌		
Age Ageing. 2015 Jan;44(1):84-9. doi: 10.1093/ageing/afu083.		
キーワード		PMID
老化、飲酒、中央と東ヨーロッパ、高齢者、身体機能		24982097
要 旨		
<p>目的： 非飲酒者と多量飲酒者では、少量・適量飲酒者に比して身体機能制限のリスクが高いとの系統的レビューによる報告があるが、見解は一致していない。身体機能に制限のある者の割合は西欧に比して中東欧で高い。そこで中東欧の中高年におけるアルコール摂取と身体機能制限の関連を検討した。</p> <p>方法： 東欧における健康、アルコールと社会心理的要因の調査（HAPIEE）データを用いた横断研究である。対象者はノボシビルスク（ロシア）、クラクフ（ポーランド）とチェコ共和国の7つ中規模の町の居住者から28,783人（45–69歳）をランダムに選択した。身体機能は、Short-Form-36質問票のPhysical Functioning（PF-10）Subscaleを用いて測定し、スコアが最適身体機能の75%未満の参加者を身体機能の制限ありと定義した。アルコール摂取量は、質問票を用いて直近12ヵ月間の1日当たりの飲酒量と飲酒頻度により評価した。問題飲酒はCAGE質問票の質問に2つ以上該当した者とした。対象者のうちロシア人は、過去の飲酒状況も調査した。また、現在の非飲酒者は、生涯非飲酒者と過去飲酒者に分けた。飲酒に関する要因と身体機能制限リスクについて、多重ロジスティック回帰分析を用いて、共変量（性、年齢、社会経済要因、BMI、喫煙状況）を調整したオッズ比を算出した。</p> <p>結果： 身体機能制限の多変量調整オッズ比は非飲酒者で最も高く、飲酒頻度、年間飲酒量と1日あたりの平均飲酒量が増えると低下したが、問題飲酒との関連はなかった。日常的な適量飲酒者に比して非飲酒者の身体機能制限の多変量調整オッズ比は、1.61（95%信頼区間（CI）：1.48–1.75）であった。過去の飲酒状況を評価したロシア人における身体機能制限リスクの多変量調整オッズ比は、継続飲酒者に比して、健康理由による過去飲酒者では3.19（95%CI：2.58–3.95）、生涯非飲酒者では1.27（95%CI：1.02–1.57）、健康理由によらない過去飲酒者では1.48（95%CI：1.18–1.85）、健康上の理由による減酒者では2.40（95%CI：2.05–2.81）であった。</p> <p>結論： アルコール摂取と身体機能制限リスクの間に負の関連を認めた。非飲酒者で身体機能制限リスクが高かったことは、健康上の理由のために減酒もしくは禁酒した者により大部分は説明された。また、多量飲酒の明らかな身体機能制限リスク予防効果は、健康上の問題がある多量飲酒者が、低い飲酒カテゴリーに移動したことにより部分的に説明できる。</p>		